

私たちがつくりあげる未来とは

東京2020大会を通じて、ボランティアに多くの関心が集まりました。そして、大会ボランティア・都市ボランティアには、合わせて24万人以上の応募があるなど、募集人数を大きく超える応募がありました。

こうしたボランティアのエネルギーを、大会後の社会にどのように還元することができるでしょうか。ここでは、大会後のボランティアについて考えてみたいと思います。

私たちがつくりあげる未来とは

東京2020大会後のボランティア社会を考える

東京2020大会の活動を通じて得られたさまざまな気づき、行動、成功や失敗、ディスカッション、反省、新しい価値観など、それぞれの経験が次の社会を動かすエネルギーとなるはずです。そのエネルギーこそが、東京2020大会後に未来を変える力となることが期待されます。ここで、私たちが、どのような点で社会にインパクト（影響）を与えるかを紹介します。

多様性への理解

私たちが接する選手をはじめとする世界中の方々は、性別、年齢、文化や国籍、心身機能、性的指向、性自認、宗教・信条や価値観、キャリアや経験、ライフスタイルなどにおいて多様です。また、活動を共にするボランティア同士も同様です。

これまで、お互いの多様性を理解しながら行動することは、当たり前とされながらも、その実際はとても難しい状況がありました。世界中から多くの人が集う、オリンピック・パラリンピックを通じて、「多様性を受け入れ、お互いに理解し合う」ことは、インクルーシブな社会の実現に欠かせないプロセスなのです。私たちの経験が、新しい社会の1ページをデザインします。

ボランティア文化の醸成

世界では、災害、紛争、貧困、医療、教育、福祉、環境保全等、さまざまな分野において多くのボランティアが活躍しています。しかし、生活の身近なところにボランティアが存在している場合と、そうでない場合があります。

ボランティアが文化として享受されるためには、活動に興味のある人を中心に単に各分野におけるボランティア活動が盛んになればよいということではなく、それを取り巻くすべての人々にボランティア活動について理解してもらうことが重要になります。

オリンピック・パラリンピックを支えるボランティアの活動の姿を通じて、多くの方のボランティア理解が促進されることが期待されます。

ボランティアを支える環境づくり

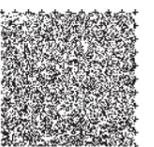
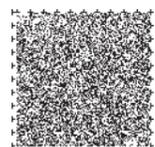
ボランティア活動をはじめとするさまざまな社会活動が継続的に展開されるには、個人が所属する企業や学校をはじめとする組織や団体、あるいは家族やパートナーの理解がとても重要になります。

東京2020大会を支えるボランティア活動が、ボランティア活動に対する意識向上につながり、社会がボランティア活動を支えていく文化を形成することができれば、すべての国や地域において展開されるさまざまな社会活動へと接続されることでしょう。また、ここでボランティア活動を共にした方とのネットワークは、つながりと広がりをもさらに加速させるものになるでしょう。

東京2020大会におけるボランティア活動は、大会を越えて、未来へと続いていきます。



©アマナ



私たちがつくりあげる未来とは

ボランティアの本質的理解

ボランティアは、さまざまな課題と直面し、それを解決することでさまざまな人を笑顔にする活動です。これから私たちの暮らす社会では、未曾有の出来事等によって、時には困難に直面することもあるかもしれません。

ボランティアの先駆的な試みによってこれまで多くの方が支えられてきたように、まさにボランティアから展開されるさまざまな活動は、私たちに笑顔をもたらしてくれます。

ボランティア活動には、さまざまな分野、活動形態がありますが、その活動は、最後には一人ひとりに笑顔をもたらします。だから、ボランティア活動は、魅力的な活動なのです。

東京2020大会を支える私たちが、そのことに気づき、ボランティアの本質を理解することができれば、ボランティア文化は強固なものになるでしょう。

繰り返しになりますが、すべての人々が幸せに暮らすため、これから世界中で「多様性と調和」に関する議論がますます重要になります。

大会を支えた私たちのさまざまな経験が、その礎になることは間違いありません。



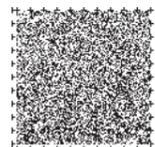
column

ロンドン2012大会ボランティアのその後

ロンドン2012大会では大会ボランティア（ゲームズメーカー）と各都市の観光ボランティア（アンバサダー）の7万人以上が活躍しました。イギリス国内では、大会後もこうした多くのボランティア経験者が継続的に活動できるように、さまざまな組織が情報提供や活動のマッチングを行う取り組みを実施しています。

2012年5月に設立された「ジョイン・イン（Join In）」では、地方自治体やスポーツ関連団体等と連携し、ボランティア活動を促進するキャンペーンや、スポーツボランティアのマッチングサイトの運営等を行い、大会後もボランティア活動を促進する取り組みを行っています。2016年以降は、「スポーツ アンド レクリエーション・アライアンス（Sport and Recreation Alliance）」に活動が引き継がれ、地域のスポーツボランティア活動の検索提供や募集情報を提供しています。

また観光ボランティア（アンバサダー）として活躍したボランティアも、例えば、ロンドン市では「チーム・ロンドン（Team London）」のウェブサイトを運営し、ボランティア活動のマッチングを行っています。また、サッカーの会場となったコベントリー市では、「EnV」という社会的企業（ソーシャルエンタープライズ）を立ち上げ、「コベントリーアンバサダー」が現在もさまざまなボランティア活動を継続しています。こうした各取り組みの結果、ロンドン2012大会後も大会を支えたボランティアが継続的に活動を展開していることが報告されています。



いよいよ東京2020大会が始まります。
Field Cast・City Castが大会を動かします。

さあ、出番です!!

